

179年

光和二年（漢）

皇帝

劉宏（漢靈帝）

皇后

（空位）

皇太子

（空位）

三公

太尉：橋玄(前光祿大夫・178~179) 段?(前大中大夫・179) 劉寬(前衛尉・179~181)

司徒：袁滂(前光祿勳・178~179) 劉?(前大鴻臚・179) 楊賜(前光祿勳・179~181)

司空：袁逢(前屯騎校尉・178~179) 張濟(前太常・179~184)

九卿

太常：張濟

光祿勳：楊賜

衛尉：劉寬 陽球

大僕：

廷尉：

大鴻臚：劉?

宗正：

大司農：

少府：

執金吾：

地方官

司隸校尉：陽球

主な事件

- ▶ 春 大疫。常侍を使わして、調者を巡行に当たらせ医薬を処した《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 三月、司徒袁滂を免じ、大鴻臚の劉?を司徒と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 三月乙丑、太尉の橋玄が罷める。大中大夫の段?を太尉とした《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 三月、京兆にて地震《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 三月、司空の袁逢が罷める。太常の張濟を司空と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 夏四月甲戌朔、日食あり《後漢書孝靈帝紀》太尉の段?は日食があったので自ら弾劾し、有司が奏上し、詔をもって

印綬を収め、廷尉に詣でた《後漢書皇甫張段列伝段穎*》

- ▶ 四月辛巳、中常侍の王甫及び太尉の段?が獄に下され死ぬ《後漢書孝靈帝紀》司隸校尉の陽球は王甫を誅さんと奏上し併せて事は段?に及んだ。段?は獄中に就くと詰責され遂に鳩を飲んで死んだ。家屬は辺境に移された。《後漢書皇甫張段列伝段?》
- ▶ 四月丁酉、天下に大赦を下す。党人の禁錮で功少ないもの以下は許された《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 四月、東平王の劉端が亡くなった《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 五月、衛尉の劉寬を太尉と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 秋七月、使匈奴中郎將の張脩を罪有りとして、獄に下し死ぬ。注に引く、時に張脩は単于の呼徴を檀において斬り、更に羌渠を単于に立てた。故に坐死す《後漢書孝靈帝紀》中郎將の張脩は単于に相応しくないとして斬り、右賢王の羌渠を単于に立てた。先触れもなく誅殺したので檻車を遣わし廷尉に下し抵罪《後漢書南匈奴列伝》
- ▶ 冬十月甲申、司徒の劉[合]、永樂少府の陳球、衛尉の陽球、歩兵校尉の劉納は宦官を誅そうと謀るも、事が漏れ、皆獄に下され死ぬ《後漢書孝靈帝紀》陳球の小妻は程?-之娘で、程?は宦人で程大人と呼ばれていた。曹節等は重く程?に賄賂と脅しをかけ、陳球の謀計を告げる。曹節は帝に「?等は常に藩國と交通し、悪意があります。?兵校尉劉納及永樂少府陳球、衛尉陽球は不軌をなさんと謀議の書を交えております」帝は大いに怒り、策書をもって?を免じ、?と球及劉納、陽球らは皆下獄死した。球は時に年六十二。《後漢書王?陳列伝》
- ▶ 十月、巴郡の板楯蛮が叛く。御史中丞の蕭?を遣わし、益州刺史を督して之を討つ。勝てず《後漢書孝靈帝紀》巴郡の板楯がまた叛き、三蜀及漢中諸郡を寇掠する。靈帝は御史中丞蕭?を遣わして益州の兵を監督し討つが連年勝てず、帝は大いに兵を発せんと欲し、益州計吏に征討の方略を問い、漢中上計程包が答えた。「今は但明能な牧守を選び、自然に安んじすれば征伐の煩いは無い」と。帝は其言に従い、太守曹謙を遣わして詔を以って之を赦す。即皆降服する《後漢書南蠻西南夷列伝》
- ▶ 十二月、光祿勳の楊賜を司徒と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 十二月、鮮卑が幽州并州を寇略す《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ この年、河間*王劉利が亡くなる《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ この年、洛陽の女の子が子を産んだが頭が二つ腕が四本だった《後漢書孝靈帝紀》

誕生者

死没者

王甫：中常侍・獄死

段穎*：太尉・獄死

陳球：永樂少府。獄死。弟の子に陳珪（沛相）があり、その子が陳登（廣陵太守）。

[PAGE TOP](#)

[178年 <<](#) [>> 180年](#)